

新斗米自治会長より
集落活動応援事業費補助金を活用し、参道を整備したことで自治会内の交流が増えました。新型コロナウイルスが落ち着いた時には、帰省した人たちも含め、交流を深めたいと思います。今後も強い絆で結ばれた自治会を目指し、活動していきたいと思っています。

取組内容
新斗米自治会では、自治会内で話し合い、自治会員が利用しやすいような碎石を敷いたり、階段を設置したりするなど、墓地までの参道を整備しました。
今年度は、整備した参道を活用して自治会で流しそめんを行った後に、子どもたちの太鼓の練習をしながら、交流を深めました。
地域資源を活用し、住民の交流や親睦を深める取り組みにより、地域コミュニティの活性化に繋がっています。



流しそめんの様子



太鼓の練習

◎集落支援員活動事業
集落支援員が、自治会の「状況調査」を行い、調査結果を基に自治会の現状や課題、将来の自治会像などについて自治会と共に「話し合い」を進め「活性化活動」への取り組みを支援します。
小規模な自治会（50世帯未満）を中心に支援しています。活用を検討される自治会は、お気軽にお問い合わせください。



新斗米自治会
22世帯
約70人

新斗米自治会の取り組み

花輪地区の「新斗米自治会」における集落支援員活動事業と市の補助制度を活用した取り組みをご紹介します。

MY-SOPRON-LIFE

(私のショプロン生活) ブログ公開中 <https://my-sopron-life.blogspot.com/> ぜひご覧ください。

日本語学指導員現地レポート 第11代日本語学指導員 戸脇美夢さん

三重県出身。留学経験を経て、国際教養大学専門職大学院にて日本語教育を学び、多くの異文化交流イベントの企画・運営に携わるなど、豊富な国際交流経験を活かして渡航。



いくのかなと思います。

ショプロン市に引っ越して、1年が経ちました。新型コロナウイルスの影響で、旅行やイベントへの参加などは思うようにできませんでしたが、市役所職員の方や日本語教室の生徒に親切にしてください、とても充実した1年でした。ハンガリー語もだいぶ理解できるようになり、手助け無しでいろいろなことができるようになりました。

やっと自由に外出できるようになり、渡航時からの夢であったハンガリーの温泉に行きました。実はハンガリーは世界でも有数の温泉大国です。日本の温泉と違うのは、全て混浴で、水着を着て入浴することですが、一番驚いたのはお湯の温度が29度から36度とぬるいことです。少し物足りなく感じましたが、代わりに、生徒とゆっくり会話しながらお湯に浸かることができよかったです。果物を持ち込んでくれる方や、温泉の中で体操をしている方もいて、とても外国らしいと思いました。



ハンガリーの温泉の様子

ハンガリーを訪れる機会があれば、ぜひ温泉にも足を運び、日本との違いを楽しんでみてください。

大日堂舞楽は、地元では「祭堂」とも呼ばれ、正月2日の大日靈貴神社の養老礼祭で奉納されます。能衆（舞楽を舞う方々）は、約一カ月前から四つ足（牛や豚など）を食べないなどの精進潔斎を行い、当日は垢離を取り、夜明けに行列を組み、各集落から厳寒の雪道を歩いて大日堂へ向かいます。舞

市民全員がガイドとして、鹿角の魅力を再発見し、市内外に発信するきっかけとなるよう、市内観光名所や歴史・文化、産業遺産などをシリーズで紹介しています。

「守り繋げる大日堂舞楽」
大日靈貴神社は、地元では「大日堂」「大日さん」と親しまれ、トンボに導かれて長者になったという伝説の「だんぶり長者」の娘で、継体天皇の后になった「吉祥姫」が、両親を追慕するために建立したと伝えられています。時が流れ、神社は荒れてしまいましたが、養老二年（西暦718年）に元正天皇の勅命で再建された際に、完成を祝う式典で都の楽人が奉納した舞楽が「大日堂舞楽」の起源と伝えられています。それから約1300年もの間、八幡平地域の四つの集落（大里・小豆沢・長嶺・谷内）の人々により舞楽が伝承されてきました。

鹿角を知る・伝える
市民全員がガイドとして、鹿角の魅力を再発見し、市内外に発信するきっかけとなるよう、市内観光名所や歴史・文化、産業遺産などをシリーズで紹介しています。

市民全員ガイド化計画

所作などに芸能の古風さやうかがわせること、また地域独自に変化した諸相がみられるといった特色が評価され、昭和51年に国重要無形民俗文化財に指定され、平成21年にはユネスコ無形文化遺産に登録されました。毎年正月2日には全国各地から参拝客が訪れ、素朴ながらも厳かな神事を見守ります。

は「権現舞」「駒舞」「鳥遍舞」「鳥舞」「五大尊舞」「工匠舞」「田楽舞」の七つの本舞と、本舞の前に舞う「神子舞」、「神名手舞」で構成される。笛や太鼓などの演奏に合わせて舞われます。「神子舞」と「神名手舞」は四集落共通ですが、本舞は集落ごとに分担があり、大里地区が「駒舞」「鳥舞」「工匠舞」、小豆沢地区が「権現舞」「田楽舞」、長嶺地区が「鳥遍舞」、谷内地区が「五大尊舞」を伝承しています。

は「権現舞」「駒舞」「鳥遍舞」「鳥舞」「五大尊舞」「工匠舞」「田楽舞」の七つの本舞と、本舞の前に舞う「神子舞」、「神名手舞」で構成される。笛や太鼓などの演奏に合わせて舞われます。「神子舞」と「神名手舞」は四集落共通ですが、本舞は集落ごとに分担があり、大里地区が「駒舞」「鳥舞」「工匠舞」、小豆沢地区が「権現舞」「田楽舞」、長嶺地区が「鳥遍舞」、谷内地区が「五大尊舞」を伝承しています。

会社概要

大湯地区を中心とした方々の要望により、昭和58年に「わかば保育園」を開いたことが、当法人の事業の始まりです。設立当初から、「子どもたちにとってより良い保育とは何か」「高齢者が安心して年を重ねられる施設とは何か」を探求しながら地域の方々を笑顔にできる施設を目指しています。

介護士や介護を受ける方、保育士や子どもたちなど、人それぞれの個性や能力、障がい、認知の状態を尊重し、敬意をもって日々の業務に携わっています。



- ◆所在地 十和田大湯字湯ノ岱1-1
- ◆設立 昭和61年5月27日
- ◆代表者 村木 普輝 普
- ◆連絡先 ☎37-3500
- ◆ホームページ <http://aiseikai.or.jp>

代表から

理事長 村木 普輝 普さん
愛生会は、介護や保育、障がいなど、福祉の枠組みにとらわれず「ふつうに暮らすことを支えること」を目標に事業を展開しています。また、「利用者の方やその家族を笑顔にするためには、まずは職員が笑顔に」を合言葉に、職員の腰痛予防対策として、持ち上げない介護「ノーリフティングケア」の導入をはじめ、新職員へのマンツーマン指導や記録用タブレット端末の導入など、職員がストレスなく業務にあたれるような職場環境の改善に努めています。私たちと一緒に働いてみませんか。

うちの会社のここがスゴイ!

近藤 元樹 さん
小さい頃から高齢の方と接することが大好きで、日々の介護にやりがいを感じています。



魅力あふれる地元企業を紹介
鹿角の企業 いいね!
社会福祉法人 愛生会



理事長 村木 普輝 普さん